



Shibasaburo Program

第12回柴三郎プログラムセミナー

ウイルス感染症を細胞レベルから 世界レベルまで考えてみる

—WHOやクラスター班にも従事する医学者のお話—

テーマ

感染症は今なお人類の公衆衛生上の脅威であり、2000年以降だけでもSARSやエボラ、そして新型コロナウイルス感染症などが大きな話題となりました。私はこれまで医師・研究者・行政官などさまざまな立場に身を置き、感染症の諸問題に立ち向かってきました。例えば西アフリカでエボラが大流行したとき、道端には遺体が転がり、医者は次々と国外へ逃げ出し、ほとんどの公共サービスが停止する中、私はWHOコンサルタントとして“そこ”にいました。2020年からは政府の新型コロナ対策分科会の参考人やクラスター班の参与も務めています。そんな世界で私たちがどんな活動をしているのか、自身の経験を交えながら紹介したいと思います。

参加費
無料

2023年

1月30日 月 17:00-18:30

医学生必見!

医学教育図書棟3F 第一講義室

講師

長崎大学医歯薬学総合研究科

古瀬 祐気 教授

●プロフィール

東北大学MD-PhDコースで博士号を取得後、
2011年に医学部を卒業。
成田赤十字病院 初期臨床研修医、米国Duke大学 博士研究員、
東北大学 助教、京都大学 准教授などを歴任し、
2022年より現職の長崎大学教授。
フィリピン、タイ、リベリア、ナイジェリア、そして日本などで
感染症対策に関わる国際保健活動を行っている。



申し込み
問い合わせ

柴三郎プログラム運営委員会事務局

iyg-igaku-3@jimu.kumamoto-u.ac.jp (内線5029)